

知る キウシト湿原を

小さな湿原の発見

皆さんは、『湿原』がどのようなところかご存知ですか？

湿原は、湿地の一つで、多湿、低温の土壌に発達した草原といわれ、そこでは多様な動植物が生息し、独特の生態系が形成されています。

北海道では、釧路湿原や雨竜沼湿原などが有名で、これらは、重要な湿地を守り、湿地を壊さないように利用するための『ラムサール条約』にも登録されています。湿地は動植物の生息地としてだけでなく、雨水などを吸収し、河川の氾濫を緩和するなど、さまざまな面でわたしたち

の生活環境を支える生態系として世界的にも重要とされています。

登別市にも湿原があるのを皆さんご存じですか。

若山町にある、住宅地に囲まれた広さ45畝の小さな湿原『キウシト湿原』です。

『湿原』という言葉から、広大な湿地を想像しがちですが、キウシト湿原は気を付けなければ通り過ぎてしまいそうな広さです。かつては、まち一带に湿地が広がり、野生生物が生息・生育する自然豊かな場所として親しまれてきました。

しかし、まちの発展とともに住宅街が形成され、少しずつ湿地が失わ

れる状況になりました。そのような中、平成9年、キウシト湿原が、かつての原風景をそのまま残した希少な動植物の生息地であることが、市そして市民団体・ふるさと自然情報局などの現地調査で明らかになり、キウシト湿原保全の機運が高まってきました。

キウシト湿原の貴重性

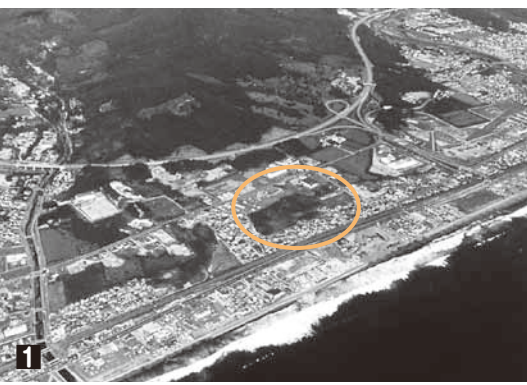
キウシト湿原の大きな特徴の一つは、ワラミズゴケやオオミズゴケのハンモック（ドーム状の盛り上がり）が形成されていることです。ワラミズゴケのハンモックの群生は、北海道では太平洋沿岸の湿原に広く分布していましたが、開発などにより湿原が失われ、現在では十勝川の河口の一部と苫小牧市の柏原湿原でしか見られない希少なものとなって

います。

また、環境省のレッドリストに絶滅危惧種として指定されているエゾホトケドジョウのほか、準絶滅危惧種として指定され、ハンモックが1年に1ミリしか成長しないと知られているオオミズゴケやオオバタチツボスミレなど、貴重な動植物も多数生息しています。

平成13年10月には、このようなキウシト湿原の重要性が認められ、環境省の『日本の重要湿地500』に選定されるとともに、市では、本格的に湿原の保全に乗り出し、用地の取得や湿原の整備などを行う『緑地保全事業』を開始しました。

そして、ことし4月29日、ついに長年にわたって進めてきた木道や木柵、ビジターセンターなどの環境整備を終え、キウシト湿原が一般開放されました。



1. 平成9年頃のキウシト湿原周辺を上空から見た様子
2. ワラミズゴケのハンモック
3. 絶滅危惧種に指定されているエゾホトケドジョウ
4. 準絶滅危惧種に指定されているオオバタチツボスミレ